

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザ テラス西田橋
所在地	鹿児島市西田1丁目11-1 (電話) 099-213-0091
自己評価作成日	平成28年2月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「ゆっくり やさしく おだやかに」をモットーに、認知症があっても安心して生活できる家庭的な環境づくりや、個々に合わせた対応を行っています。認知症介護に対する知識などを養うため職員教育にも力を入れています。地域交流の面では、住み慣れた町内会の行事などへも参加しています。また、病院が母体にあるので、密接した医療連携を行うことができます。医師の訪問診療により、ホームにしながら、診療や薬の処方を受けることができます。また、機能維持の取り組みとして、併設の老人保健施設に通り、リハビリスタッフの評価の下、専門的な運動リハビリも受けることができます。利用者の楽しみごとの支援としては、毎月様々な行事を企画し、外出支援などを行いながら、気分転換を図っています。鹿児島中央駅が徒歩圏内にあるため、個別の買い物支援なども行うことができます。遠方在住のご家族にとっても、交通の便がよく、面会もしやすい環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿児島中央駅から徒歩圏内にあり、学校、スーパー、病院など生活上の利便性に恵まれた環境に立地している。法人は医療機関、介護老人保健施設、訪問看護ステーション等を運営しており、医療との連携が図られ、訪問看護師による健康管理など家族の安心に繋がっている。また、老健でのリハビリも利用者の機能維持に繋がっている。

ビル型のグループホームでなかなか地域との交流が困難な環境ではあるが、地域行事見学に出かけたり近隣の美容室やスーパーを利用するなど日常生活で無理のない範囲で地域と繋がりながら生活し、職員も地域行事の準備などに積極的に出かけて地域の一員として事業所が孤立することのないように交流に努めている。外出も多く、ほぼ毎月、遠出の外出などを計画して出かけている。ときには家族も一緒に外食を楽しんだり、中央駅の観覧車も利用者に好評で喜んでもらっている。

排泄状況も入居してから改善された利用者も多く、昼夜ともにトイレでの排泄を支援し、日中下着で過ごしている利用者も多く生活機能のレベルが高いことが伺われる。「家に帰りたくない」「一日を楽しんでいる様子が伺える」など家族の評価からも利用者が自由で安心して楽しく生活している様子が伺える。

職員育成にも力を入れており、現在半数以上の職員が介護福祉士、ケアマネの有資格者で質の高いサービスの提供がなされている。管理者・職員はマンネリ化することなく目標をしっかりと持っており今後の取り組みにも意欲が伺われる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について、フロアの各所に掲示し、共有を図り、職員への意識付けを行っている。理念に基づきサービスを実践している。	各フロアとエレベーター内にも理念を掲示して来訪者にもわかるようにしている。覚えやすい理念となっており、職員会議等で確認及び振り返りの機会を設けて理念の共有と実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、近所を散歩したり、通い慣れた美容室を利用したりして、住み慣れた地域との交流を図っている。	法人全体で自治会に加入しており、地域行事の手伝い等にも職員が積極的に参加して地域交流に努めている。また、利用者も地域の夏まつり見学や商店での買い物、美容室利用などで地域とつながりながら生活している。学生の実習やボランティアの受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議などを通して、地域での認知症講習会などを提案している。まだ、実践はないが、依頼があれば積極的に取り組みたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事や研修の報告を行うと共に、参加者の意見もいただいている。また、地域の困りごとについても意見をいただき、共有している。	町内会役員・民生委員・地域包括職員等の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームからの行事報告、活動報告、地域や行政との情報交換等が行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や保護課との連携を図り、サービスの提供を行っている。また、必要時は事故報告やサービスについての相談を行っている。	運営推進会議に参加してもらっており、ホームの実情や取組内容を伝えている。また、地域包括センター主催の地区連絡会にも参加している。生活保護受給者もあり、介護保険課との連携も図られている。毎年、介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての事業所内研修や入職時研修を実施しており、職員の知識を養うと共に、拘束ゼロを実践している。玄関の施錠等は行わず、見守りなどを徹底しながら、無断退居などを防止している。	ホーム内に「身体拘束排除宣言」を掲示しており、マニュアルを作成して新人研修時やホーム内勉強会を行い拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は職員の見守りと連携で玄関も施錠はせず、各フロアへの移動手段のエレベーターも利用者は自由に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても事業所内研修等を行い、職員の知識を養っている。ゆとりある職場環境を整備し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても事業所研修を行い、職員の知識を養っている。利用者を擁護する公的な制度を把握し、必要があれば勧めていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書や重要事項の説明書を分かりやすく行い、ご理解を得ている。改定の際は、家族会等で十分な説明を行い、ご理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会や、法人委員会によるアンケートなどを実施し、ご家族の意見を聞いている。ご意見等での改善事項には迅速に努め、必要に応じて法人で協議し、運営に反映させている。	日常の面会時、電話連絡時、年2回の家族会時等に家族から意見・要望・質問などを聞き取っている。家族会はほとんどの家族の出席が得られており、有意義な会議となっている。出された意見・要望については協議して場合によっては運営規程等にも反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換や、個人的な相談など積極的に受け、業務等に反映できるように努めている。管理者の一存で判断できない場合は、事務長等に相談を行っている。	毎朝の申し送りと職員会議は合同で行い情報の共有を図っている。職員会議は基本全員参加で意見・提案等を話し合っている。法人は職員の資格取得にも積極的に介護福祉士半数以上、ケアマネ3名と働きながらレベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりを目指し、職員の意見を反映させた業務マニュアルを作成している。職員へのねぎらいの気持ちをもち、モチベーションを高めるような声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回は事業所内研修を開催し、持ち回りで担当を決めている。教える立場を経験させることで、より深い知識を学ばせている。外部研修にも、参加させ、専門的知識を養っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などが主催する研修に積極的に参加し、他施設職員との交流や意見交換も行えている。近隣地域の、地域密着型サービスの意見交換会やネットワークを構築できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面会を行い、担当のケアマネや家族、本人から要望や困りごとなどの聞き取りを行っている。信頼関係が築けるよう笑顔や言葉遣いに気をつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや心配事を伺い、ケアプランや入所後の対応に反映させている。入所して間もない時期は、こまめな連絡を行い、状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントをしっかりと行い、ニーズを明確に捉え、優先的に支援が必要なものをケアプランに反映させている。主治医の変更を行う場合は、混乱の少ないよう声かけを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者の生活の場であるという意識をしっかりと持ってもらい、各々の生活スタイルを重視するよう指導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、定期的な広報誌や面会時に情報提供を行うようにしている。また、家族参加型の行事も企画し、ふれあいをもてるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に交流があった友人や美容室などとの関わりを継続できるよう支援している。以前検討していた、個別での買い物支援も実施することができた。	入居前からの美容室の利用や買い物、ゴミ出し、また、法事や墓参りなども家族の協力をもらいながらこれまでの生活の継続と馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。個別支援として個別外出にも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や、認知症の症状等を把握し、席位置の配慮等を行っている。トラブルや孤立してしまうことがないように、こまめなコミュニケーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設で対応が困難になってきた場合、次の施設や病院を探し、繋げるところまで責任をもって行っている。入院後も状況確認などを行い、相談等を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通して、希望や意向を把握している。認知症等で表現が困難な場合は、本人の気持ちを代弁し、ケアプランに反映している。	ゆっくりと話をすることを心がけ、日常の会話で思いや意向、趣味や特技などを聞き取り、個々にホームでの生活が楽しめるように支援している。会話が困難な場足は表情、言動、家族や関係者からの情報等で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人やご家族から、生活暦や性格、こだわりなどをアセスメントするようにしている。利用開始後に得た情報も追加してサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の生活スタイルを尊重し認知症や障害があっても、本人のストレングスを活用し、自立に向けた支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成や更新前には、本人やご家族に意向を確認し、原案を作成している。サービス内容については定期的にモニタリングを行い、実施状況を把握している。評価は6ヶ月毎に行い、支援の見直しを行っている。	本人・家族の意向や思いなどを聞いて個々に応じた個別の介護計画を作成している。申し送りやケアカンファレンス、職員会議等でしっかりと情報交換を行い、本人、家族からの定期的な聞き取りや他部署との連携を図り現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、サービス提供の実施状況を記録している。利用者の言動や、職員の推測なども記録するようにしている。職員間で共有が必要なものは別に申し送りノートに記入し、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、外出や行事などを企画し、実施している。また利用者ごとに、担当の職員を決めて、個別の外出支援も実施している。各々の要望に答え、柔軟なサービスが提供できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターに登録し、行事などでの、介護ボランティアの活用や、通院時などでは、福祉タクシーを利用するなど、地域の資源を活用し安全なサービス提供を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意の上、利用者の殆どが、土橋病院が主治医となっている。訪問診療にて、健康確認や処方を行っている。定期的に訪問看護や訪問歯科にも来てもらい必要な処置を受けている。	本人・家族の同意のうえ、ほとんどの利用者が法人の医師がかかりつけ医となっており、定期的な訪問診療と訪問看護師による健康管理が密に行われている。他科受診については紹介状で情報交換を行い適切な医療が受けられるように支援している。「緊急時の搬送病院及び処置について」を別紙にて作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に異常が見られた場合は、土橋病院の看護師に相談し、指示を仰いでいる。また、日々のバイタルや体調などは訪問看護師に確認してもらい、必要なアドバイス等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の相談員や医療関係者との情報交換を密に行い、治療状況や入院の期間などの把握を行っている。相談員などとは、名刺交換等を行い、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を説明し、同意をいただいた上で利用していただいている。現段階では、見取りを行っておらず、身体機能や病状が悪化した場合は、医療機関や対応できる施設への転居をお願いしている。しかし、今後は当施設でも看取れる体制をつくっていく予定である。	重度化及び看取りに関する指針を作成して入居時に説明している。入居後は利用者の身体状況に伴い主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、フロアに掲示したり職員に周知したりしている。基本的に、管理者へ第一報を入れ、指示を出す体制となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、事業所内研修や、入職時研修を行い、周知している。また、避難訓練を実施し、マニュアルの再確認も行っている。運営推進会議などで、当方人の災害対策なども報告し、緊急時の協力も依頼している。	年2回昼夜間想定で避難訓練をおこなっている。ハード面のリスクが高いことを認識して職員は冷静に対処できるスキルを身につけられるように努めている。法人の関連施設等が近隣にあり協力体制は話し合われている。通報装置・スプリンクラーは設置されており備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴などを把握した上で、人格やプライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。居室に入室時も、必ず声をかけ、了承を得ている。	法人全体とホーム内で定期的に勉強会を行い、職員の資質の向上に努めている。特に日常において排泄の声かけや呼び名、入室時には許可を求めるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定について、認知症があっても、選択肢などを与えて意思を確認するなど、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、やさしく、おだやかに」の理念をモットーに、利用者のペースに合わせた処遇を実施している。入浴や食事の時間などは、ある程度統一させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	認知症により、整容や更衣ができない方でも、その人らしい身だしなみができるよう配慮している。定期的にカットやカラーなどができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、できる範囲での動作を取り組んでいただいている。誕生日や行事などは、個人に合わせたメニューを提供している。時には、外食の支援もしている。	出来る範囲で簡単な調理手伝いや片付けなど職員とともにに行っている。外食も取り入れてときには家族も共に楽しめるようにしている。弁当持参の季節の花見やそ〜めん流しなどにも出かけ、冬はホーム内で鍋パーティーを行うなど「食」が楽しめるように趣向を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を考え、嗜好や病気に配慮した食事の提供を行っている。摂取量や摂取状況を確認し、必要に応じて食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、利用者の機能に応じた口腔ケアの支援を行っている。不十分なところは、介助にて後磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況をチェックし、各々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導などを行っている。基本的には、日中も夜間もトイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表を作成して個々の排泄パターンを把握し昼夜間ともトイレでの排泄を支援している。入居してから改善された利用者も多く、半数の利用者が日中は下着で過ごしており職員のさりげない見守りと誘導で維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動をしっかりと行うように心がけ、便秘予防に努めている。できるだけ下剤に頼らないよう、便通に効果的な食品や運動等を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の回数や時間帯は、業務の特性上なかなか融通を利かせられないのが現状だが、各々の要望にできるだけ答え、ゆっくり時間をかけて入浴支援を行い、満足感を得られるように努めている。	基本的には週2～3回としているが本人の身体状況や要望に合わせて清拭や足浴に変えるなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員や業務の都合ではなく、各々の就寝時間に合わせている。就寝時の明かり調整や、温度調整などは、個別に配慮している。眠れないときは、話しをしたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の居宅療養管理指導を受け、服薬に関する留意点などの把握を行っている。また、いつでも薬の作用や副作用が確認できるよう、直近の説明書を記録ファイルに綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団でのレクリエーションの時間も設けているが、参加の強制はしていない。居室で自由に過ごす時間も尊重し、それぞれに合わせた時間を過ごしてもらっている。また、家事動作なども取り組み役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やゴミ捨て、リハビリなどを通して日々の外出場面を設けている。また月に1回程度は、集団での外出行事を企画し実施している。個別外出は、頻度は少ないが中央駅付近への外出を実施し、各々の要望に沿った支援を行っている。	日常的に散歩やゴミ捨て、買い物、リハビリに出かけている。立地環境が良く、散歩の範囲で中央駅付近には天候をみて気軽に外出しており観覧車は利用者に好評である。ときには、外食、季節の花見、初詣、交流センターへの展示物見学、都市農業センターなどの遠出もしており利用者に外出を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人分のお金は、基本的に事務所にて預かっている。自分でお金を持っておきたい方に関しては、紛失のリスクもご家族に説明し、認めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたいとの希望があれば、必要に応じて認めている。また、知人などから利用者へ電話が来た場合も、繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、家庭的で温かみのある雰囲気作りを行っている。トイレや浴室などは常に清潔であるよう努め、気持ちよく利用できるようにしている。季節感のある飾り付けをしたり、利用者が落ち着ける環境の工夫を行っている。	4～6階がグループホームとなっており、採光がよく明るく眺めの良い共用空間となっている。テーブルやソファ、畳部分もありそれぞれが気に入りの場所でくつろげるように配慮されている。利用者は各フロアをエレベーターを使用して自由に行き来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに個人用の席を用意し、安心して共用空間に居られるようにしている。また、ソファや洗面台など気兼ねなく使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が安心できる空間になるよう馴染みの物の持込を積極的に促している。人によっては居室にテレビや配偶者の位牌を置いている方もいる。	テレビ、タンス、机、家族の写真やお気に入りの飾り物などが持ち込まれて居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の能力に合わせた声かけや介護を行い、利用者が自立し、また機能を維持できるよう支援している。常に安全面を考慮し、設備や対応を検討している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない